高　等　学　校

平成 31 年度(2019 年度)

教育研究員研究報告書

商　業

東京都教育委員会

目　次

Ⅰ　研究主題設定の理由 ･････････････････････････････････ 1

Ⅱ　研究の視点 ･･･ 1

Ⅲ　研究仮説 ･･ 2

Ⅳ　研究方法 ･･ 2

Ⅴ　研究内容 ･･ 4

Ⅵ　研究の成果 ･･ 16

Ⅶ　今後の課題 ･･ 16

研究主題	実際のビジネス現場で活躍するための資質・能力を育むための授業と評価の改善

Ⅰ　研究主題設定の理由

平成 29 年２月に発表された商業教育検討委員会報告書では､都立高校の商業科の現状や保護者、産業界等のニーズを踏まえ、ビジネスを考え、動かし、変えていくことができる生徒の育成を目指している。

平成 30 年度から都立の商業高校では、学科名をビジネス科と改編し、１年次の「ビジネス基礎」の授業において、東京都独自の教材「東京のビジネス」を活用し、生徒が主体的かつ協働的な学習活動を始めている。平成 31 年度（令和元年度）からは「東京のビジネス」で取り組んだ主体的かつ協働的な学習を基に、ビジネスについて創造的に考える能力と態度の育成を目指した学校設定科目である「ビジネスアイデア」を、２年次の生徒を対象に取り組んでいる。この授業では、グループ学習を多く取り入れ、アクティブラーニング等の視点に立った授業を行い､ビジネスの現状について理解を促すため､外部講師による講演や思考ツールを学んでいる。

平成 31 年４月にビジネス科を設置している商業高校７校の２年次の生徒に実施したアンケート結果によると、約９割の生徒が「商業科で学んだ知識や技術が今後の人生の大きな支えになる」と回答している。しかし、各学校における商業科目の年間指導計画を分析すると検定試験対策に重きを置いた授業が多く、学習した専門的知識・技術等を主体的に活用し、将来実際のビジネス現場で活躍するための資質・能力を育む授業が十分に行われているとは言えない。

そのため、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を育むためには、商業科目に自身の考えを他者と協働して課題の解決策の考案などを行う学習活動や大学及び企業と連携してビジネスを実地に学ぶ学習活動などを取れ入れていく必要である。

これらを踏まえ、本研究では「ビジネスアイデア」の授業において、実際のビジネス現場で活躍するため資質・能力を育むための授業を取り入れるとともに、生徒が思考力・判断力・表現力等を身に付けていく過程を可視化し、評価するための評価基準の確立を目指して研究主題を「実際のビジネス現場で活躍するための資質･能力を育むための授業と評価の改善」とした。

Ⅱ　研究の視点

商業部会では、授業にグループワークや外部機関と連携するなど、他者との協働的な学習を取り入れることで、生徒はこれまでに学習した知識及び技術を主体的に活用するとともに、生徒は自らの考えを他者に伝え、他者の多様な考えを取り入れることで、意欲的に学習に取り組むことができると考えた。

また、これまでの評価方法は、定期考査や検定試験の素点、提出物など知識理解の評価に重きを置いており、生徒が主体的かつ協働的に取り組む態度の評価が不十分であった。そこで、一人一人の学習に対する取組について、ルーブリック表を用いることで評価を生徒と教員とが共有することが可能となり、生徒自身の学習意欲を更に高めることができると考えた。

そして、これらの授業改善を行うことで、生徒の「思考力、判断力、表現力等」と「学びに向かう力、人間性等」を育むことができると考え、研究を進めた。

Ⅲ　研究仮説

1　具体的な事例と関連付けてビジネスを学習することや課題解決学習を取り入れることで、実際のビジネスを実感でき、体感的に学習することで意欲をもって取り組むことができる。

2　生徒の主体的かつ協働的に取り組む態度を評価するルーブリック表を作成することで、知識及び技術に偏らない、多面的・多角的な評価を行うことが可能になるとともに、学びに向かう力、人間性等を育むことができる。

Ⅳ　研究方法

本部会ではビジネスアイデアの授業において活用する共通ルーブリック表（表１）を作成した。ビジネスアイデアの授業では実社会のビジネスを実感、体感的に学習することから知識に偏らない多面的・多角的な評価が必要になる。そのため、作成においては「知識・技術の活用」を評価する観点、「思考力、判断力、表現力等」を評価する観点、「学びに向かう力、人間性等」を評価する観点の３観点から評価することに留意した。このルーブリック表は学校の特性に合わせて応用し、授業の冒頭で生徒に示すことにより、目標、ねらい、到達度、評価等について教員と生徒とが共有し、学びに向かう力、主体性をもたせることができるかを検証した。

検証授業は、各学校の特性や実態に合わせてルーブリック表のいずれかを活用し、授業改善と学習評価の充実を図った。また生徒へのアンケートを基に結果を検証した。

「表１」　ビジネスアイデア　ルーブリック表

身に付けさせたい力＼達成度		レベルＡ	レベルＢ【履修目標】[1]	レベルＣ	レベルＤ【到達目標】[2]	レベルＥ
①	マーケティングに関わる専門的な知識と技術	マーケティングに関わる身に付けた知識・技術を活用し、他者に説明できる	マーケティングに関わる身に付けた基礎的な知識を活用し、関連情報を集め理解できる	マーケティングに関わる基礎的な知識を活用し、関連情報を収集しようとしている	マーケティングに関わる基礎的な知識を習得している	マーケティングに関わる基礎的な知識・技術を習得していない
②	ビジネスに関する課題解決における知識・技術の活用する力	自ら発見した課題に対して身に付けた知識・技術を活用し、課題解決に取り組むことができる	与えられた課題に対して身に付けた知識・技術を活用し、主体的に課題解決に取り組むことができる	与えられた課題を解決するために、身に付けた知識・技術を活用している	与えられた課題を解決するために、身に付けた知識・技術を活用しようとしている	与えられた課題を解決するために、身に付けた知識・技術を活用しようとしていない
③	ビジネスに関する課題に対し、思考・判断を行い、表現できる力	課題に対し、科学的な根拠を活用し、多角的に思考・判断を行い、表現することができる	課題に対し、科学的な根拠に基づいて、思考・判断・表現することができる	課題に対し、思考・判断・表現することができる	課題に対し、思考・判断・表現しようとしている	課題に対し、思考・判断・表現しようとしていない
④	学習した知識及び技術を使い、解決策を見付けることができる力	学習した知識及び技術を活用し、有効な解決策を見付け、課題解決に取り組むことができる	学習した知識及び技術を活用し、解決策を見付け、課題解決に取り組むことができている	学習した知識及び技術を活用し、課題解決に取り組もうとしている	学習した知識及び技術が身に付いている	学習した知識及び技術が身に付いていない
⑤	ビジネスに関する具体的な事例について多面的・多角的に分析し、考察や討論ができる力	事例について、他者と協働し、自身の個性を活かしながら多面的・多角的に分析し、考察・討論し、課題解決に取り組むことができる	事例について、多面的・多角的に分析し、考察・討論することができている	事例について、多面的・多角的に分析し、考察・討論しようとしている	事例について、多面的・多角的に分析しようとしている	事例について、多面的・多角的に分析しようとしていない
⑥	試行錯誤しながら課題を解決していく力	課題解決のために行動し、振り返りながら、学び続けることができ、新たな課題を発見できる	課題解決のために行動し、振り返りながら学ぶことができている	課題解決のために行動し、振り返りながら学ぼうとしている	課題解決のために行動している	課題解決のために行動していない
⑦	企業等との連携に主体的・協働的に取り組むことができる力	「市場の動向」を踏まえて企業等との連携に主体的・協働的に取り組み課題の解決を図ることができる	企業等との連携に主体的・協働的に取り組むことができ、市場の動向を捉えようとしている	企業等との連携に主体的・協働的に取り組んでいる	企業等との連携に主体的・協働的に取り組もうとしている	企業等との連携に主体的・協働的に取り組んでいない
⑧	他者と積極的にコミュニケーションを図り、信頼関係を構築する力	他者とコミュニケーションを図る中で、相手の立場や考えを想像及び共感して、積極的に行動できる	他者とコミュニケーションを図る中で、相手の立場や考えを想像して、共感できる	他者とコミュニケーションを図る中で、相手の立場や考えを想像し、共感しようとしている	他者とコミュニケーションを図ろうとしている	他者とコミュニケーションを図っていない

1　履修目標：授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標

2　到達目標：授業において、生徒が最低限身に付ける内容を示す目標

Ⅴ　研究内容

1　研究構想図

全体テーマ　　「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」

高校部会テーマ

「学校の教育活動全体を通して育成すべき『資質・能力』を育むための授業改善と学習評価の充実」

各教科等における「資質・能力」について

【知識及び技術】

ビジネスの様々な場面で役に立ち、将来の職業を見通しながら専門的な学習を続けることにつながる知識と技術

【思考力、判断力、表現力等】

ビジネスに関する様々な課題を科学的な根拠に基づき分析し、他者との協働をとおしてよりよく解決する力

【学びに向かう力、人間性等】

地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を目指して主体的にビジネスを学ぶ態度

高校部会テーマにおける各教科等の【現状】と【課題】と【テーマ設定のための着眼点】

【現状】

生徒へのアンケート結果によると、約９割の生徒が「商業科で学んだ知識や技術が今後の人生の大きな支えになる」と回答しているが、学習した専門的知識・技術等を主体的に活用し、将来実社会で活躍できる力を育成する授業が不足している。

【課題】

1　身に付けた知識及び技術を活用する機会やビジネスを実地で学ぶ機会が不足していることから、ビジネスを学ぶ意義を理解できず、生徒の「思考力、判断力、表現力等」の育成が十分にできていない。

2　学習評価について、知識及び技術に偏重し、多面的・多角的な評価が行われていないことから、「学びに向かう力、人間性等」の育成が十分にできていない。

【テーマ設定のための着眼点】

1　身に付けた知識及び技術を活用するため、企業や商店街と連携した協働的な学習の場を設定する。

2　生徒の主体的・協働的に取り組む態度等を評価するルーブリック表を作成する。

高等学校商業部会主題

実際のビジネス現場で活躍するための資質・能力を育むための授業と評価の改善

仮　　説

1　ビジネスに関する知識及び技術を具体的な事例と関連付けて考察する学習や課題解決に取り組む学習を取り入れることで、生徒は実際のビジネスを実感し、学習に興味をもつことができる。

2　実際のビジネス現場で活躍するための資質・能力等を評価するルーブリック表を作成することで、学習の見通しをもたせビジネスを意欲的に学習する態度を育成することができる。

具体的方策

1　ビジネスの様々な場面で役に立つ知識と技術を習得した後に、ビジネスを実地に学ぶ学習を取り入れた授業を行う。

2　ルーブリック表を作成し、生徒の主体的かつ協働的に取り組む態度を評価する。

検証方法

生徒に対して授業実施前後にアンケートを実施するとともに、協力企業、教員に対し生徒の変容について聴き取り調査を行い、生徒の変容を評価する。

２　検証授業

実践事例Ⅰ

教科名	商業	科目名	ビジネスアイデア	学年	第２学年

(1)　学校の目標

ア　カリキュラム・マネジメントを確立し、次期学習指導要領に対応した教育課程の円滑な実施に取り組む。

イ　アクティブ･ラーニングを意識した良質な授業を工夫し､生徒の自ら学ぶ姿勢を育て、基礎学力の定着と伸長を図る。

ウ　生徒の想像力を育み、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行い思考力、判断力、表現力等を育成する。

(2)　教科・科目の目標

ア　ビジネスの創造や工夫について実務的に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

イ　ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに関わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題解決する力を養う。

ウ　ビジネスを創造・工夫する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。

(3)　単元の目標

ア　自分たちの発表の根拠がしっかりしていて、分かりやすく、周りから共感される発表にするために、班の課題を発見しブラッシュアップする。

(4)　単元名、使用教材（教科書、副教材）

ア　単元名　　ブラッシュアップ

イ　使用教材　自校作成プリント

(5)　単元の評価規準

ア　知識・技術	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①ビジネスアイデアで学習した知識･技術をプレゼンテーションに活用している。 ②自分の班の課題を解決することができる。	①他の班の発表を聞き、良い点・改善点について根拠に基づいた提示や質問をすることができる。	①課題解決のために積極的に話合いに参加し、よりよい発表にするために努めている。

(6)　単元の指導と評価の計画（４時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点			評価規準 （評価方法など）
		ア	イ	ウ	
第1時(本時)	・第１回クラス発表に向けてプレ発表を行う。 ・発表の改善点等を認識し、課題を発見する。 ・今後、課題を解決するためにどのような情報、データ、準備が必要か班ごとに検討する。		●	●	・ワークシートによるルーブリック評価（イ - ①） ･話合い活動によるルーブリック評価（ウ - ①）

第2・3時	・第１時の授業で出た課題について、班ごとに修正を行う。	●		●	・知識・技術を活用し、発見した課題を改善しながらプレゼンテーションを作成している。ア－①②） ・班で協力しながら話合い活動を行っている。（ウ－①）
第4時	・第１回クラス内発表を行う。		●	●	・ワークシートによるルーブリック評価（イ－①） ・話合い活動によるルーブリック評価（ウ－①）

(7)　本時（全４時間中の１時間目）

ア　本時の目標

(ｱ) 根拠がしっかりしているか、スライドは見やすいか、説明は分かりやすいか等の発表を聴く視点を養う。

(ｲ) 根拠がしっかりしており、分かりやすい発表にするための課題を認識し、協力して改善方法を検討する。

イ 仮説に基づく本時のねらい

(ｱ) 外部（他校の教員や外部業者）への発表を意識させ、より実務的なプレゼンテーションとビジネスを学ばせることで、学習に興味をもたせる。

(ｲ) ルーブリック表を用いた到達度評価を提示することにより、本時の目的を意識付けさせる。また、全体評価（クラス全体の評価）により、クラス単位で授業に取り組むという一体感を作り、協同的に学ぶ力を育成する。

ウ　本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
5分	導入 ・本時の流れの確認 ・目的・評価の確認	・学習する環境が整っているか確認をする。 ・本時の流れ・目的を伝え50分間の見通しを立たせる。 ・一人一人の評価ではなく、本時はクラス全体評価もあることを伝える。	
40分	展開 ワールドカフェの実施 ａ　プレ発表を行う（５分間） ｂ　聞いた生徒は良い点、改善点、質問等を「プレゼン評価シート」に記入し、聞いた班に渡す。（１分間） ※上記内容を班内でローテーションし、４回繰り返す。全員が発表し、全員が聞きに行く。５人いる班は、教員へ発表する。 ※５分×４回＝約20分間 ・どのような意見が出たか、「ブラッシュアップ見通しシート」を使い、班内で共有する。 （５分間） ・各班の課題や対策を全体で共有する。 （各班１分間）	・「プレゼン評価シート」は箇条書きでも文章でも良いことを伝える。 ・発表中は「プレゼン評価シート」にメモを取らせる。 ・改善点がうまく見付からない生徒に対しては「根拠」はあるか ・「分かりやすいか・実現可能か」という視点から助言を行う。 ・上手く話し合いが進まない班に対しては、「現実的に商品化する上での課題」という視点から助言を行う。 ・他の班の課題からもヒントを見付けることができるように、自分たちの発表と照らし合わさせながら聞かせる。自分たちの班に還元できそうな課題についてはメモを取らせる。	ルーブリック評価（イ―①） ルーブリック評価（ウ―①）
5分	まとめ ・ワークシートの回収。 ・次の時間の流れの確認。	・次回以降の授業の流れを伝える。	

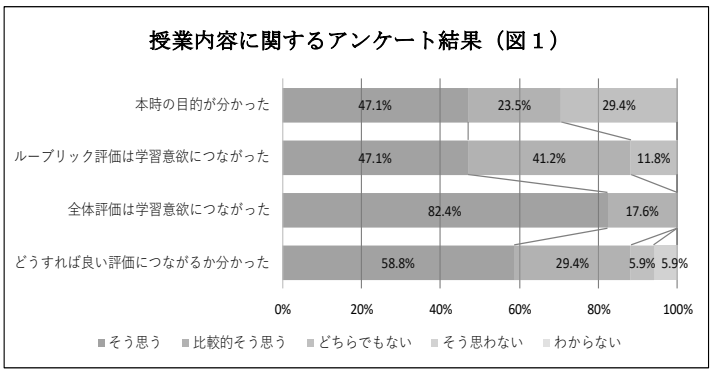
(8)　本時の振り返り

本時は、「日常のあるあるから新商品を企画する」というテーマでの学習内容の中間報告に当たる。４グループがそれぞれ新商品を企画し、ワールドカフェ方式での相互発表を行った。

本時には外部業者にも参加してもらい、より実際のビジネスに近い環境で発表を行うことができた。

ア　仮説１の検証

本時は、実際のビジネスに近い環境を再現し、その中で発表をさせたかったため、外部業者にも参加して頂き検証授業を行った。生徒が体感的に学習することで学習意欲が高まったかどうか、更にアンケートを取り検証を行った。



「意欲的に取り組むことができたか」の問いに対して、約 85%（図１）の生徒が「そう思う」と回答した。この項目は科目の評価にも関わってくるが、多くの生徒がしっかりと本時の目的を理解した上で取り組むことができていたと考える。また、「自分の班の課題を発見することができた」の問いに対しても「そう思う」が 90%（図１）を超えていることから、次回のプレゼンテーションの修正につながる指摘が多く出されたと考える。

自由記述欄には「外部の方にもプレゼンを聞いてもらって緊張した。厳しい質問をされ、回答に困った。」「緊張して焦ってしまったが、営業の厳しさを実感できた。次回は相手を納得できる根拠をたくさん準備したい。」といった意見が多く挙がった。内々での発表ではなく、様々な方に発表を見て頂いたことによって、生徒は実際のビジネスを実感し、学習意欲を高めることができた。

イ　仮説２の検証

本時は「ビジネスアイデア　ルーブリック表」（③、④、⑦）に基づき評価を行った。一つ目は個人評価（図２）、二つ目は全体評価（図３）である。個人評価は、相互発表中の個人の意見に根拠があるかどうか評価し、全体評価はクラス全体の主体性・協調性を評価するものとした。

○個人評価（思考・判断・表現）：ワークシート　**（図２）**

レベル A	レベル B【履修目標】	レベル C	レベル D【到達目標】	レベル E
ワークシートの①②が埋まっており、根拠に基づいた意見が書かれている。また、三つ全ての観点から意見が書かれている	ワークシートの①②が埋まっている。また、三つ全ての観点から意見が書かれている	ワークシートの①②が埋まっている。また一～二つの観点から意見が書かれている	ワークシートの①②が埋まっている	ワークシートの①②のどちらか、または、両方が書けていない

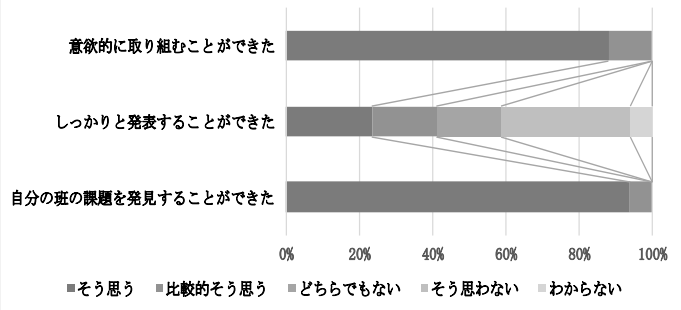
○全体評価（主体的に学習に取り組む態度）：グループワーク　**（図３）**

レベル A	レベル B【履修目標】	レベル C	レベル D【到達目標】	レベル E
全ての班が、主体的に協働して課題の解決に取り組むことができる。また、新たな疑問点や改善点を見いだすことができる	三つの班が、主体的に協働して課題の解決に取り組むことができる。また、新たな疑問点や改善点を見いだすことができる。	二つの班が、主体的に協働して課題の解決に取り組むことができる。また、新たな疑問点や改善点を見いだすことができる	一つの班が、主体的に協働して課題の解決に取り組むことができる。また、新たな疑問点や改善点を見いだすことができる	主体的に協働して課題の解決に取り組むことができない

評価に関するアンケートは、全体的に「そう思う」という回答が多かったため（図４）、良い結果を得ることができた。事前にルーブリック表を提示したことにより、本時の目的を理解

した上で授業に取り組むことができていた。一人一人が一生懸命取り組むことは大切であるが、クラス全体でも授業に取り組む姿勢と雰囲気が確立すれば、更に授業効果が大きくなると考え、個人評価とは別に全体評価という方法を実施した。全体評価に対して「自分が怠けたら他の人の迷惑になると思ったのでがんばって取り組んだ。」「自分のせいでみんなの評価を下げてはいけないと思った。」といった意見が挙がった。この評価方法も生徒の学習意欲の一つになり、学びに向かう力につながった。そのように、作成したルーブリック表は、一定の効果は見られたが、日々変化する実際のビジネスで活躍するため求められる資質・能力等に合わせ、改善を図っていく必要がある。

学習評価に関するアンケート結果（図４）



ウ　課題

まずは、生徒の取組状況についてである。多くの生徒は意欲的に取り組むことができたが、思うような結果が得られなかった生徒もいる。今後は、そのような生徒たちにどのようなアプローチを行っていけば更によいビジネスアイデアの授業になるか考えなければならない。次に学習評価についてである。ビジネスアイデアでの共通のルーブリック表を作成し、それを基に本時用のルーブリック表を作成したが、評価する教員が異なれば、評価に違いが出てしまう可能性がある。改めて、点数化されない部分の評価の難しさを実感した。また、今回全体評価を行ったが、しっかり取り組んでいる生徒とそうでない生徒が同じ評価になることに課題がある。本クラスの生徒は、全体評価を学習意欲につなげてくれたが、他のクラスの生徒が全てそうであるとは限らない。学習意欲の向上と公正さを併せもつ評価を考えていかなくてはならない。

今回の検証授業で、仮説から良い結果が得られたという点は今後の授業展開において大きな意味を見いだすことができた。しかし、課題については、ビジネスアイデアを更によいものにしていくためには、今後も継続的な検討が必要である。

実践事例Ⅱ

教科名	商業	科目名	ビジネスアイデア	学年	第２学年

(1) 学校の教育目標

ア　互いの人格を尊重し合うとともに基本的生活習慣を身に付け、自他の個性の伸長に努めることができる豊かな人間性をもつ生徒を育成する。

イ　日本の経済社会を担う経済人としてビジネスに関する優れた知識や技術を修得し、これからの国際社会で活躍する国際人として自ら行動できる教養と見識をもつ生徒を育成する。

ウ　地域産業の発展並びに文化の向上に貢献し、規範意識と良識ある都民としての自覚と責任をもつ生徒を育成する。

エ　優れた伝統を継承し、社会の変化に即応しながら誠実な態度をもって常に積極的に前進する志と意欲をもつ生徒を育成する。

(2)　教科・科目の目標

検証授業Ⅰ

(3)　単元の目標

ア　ビジネスに関する課題を発見し、根拠に基づき、課題を解決する。

イ　協働的な学習の中で、社会で通用する人間性や協調性を養う。

(4)　単元名、使用教材（教科書、副教材）

ア　単元名　　ビジネスプラン発表

イ　使用教材　学校作成ワークシート

(5)　単元の評価規準

ア　知識・技術	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①学習してきた知識・技術（各思考ツール）を活用して修学旅行プランを考えることができる。	①各班の課題を分析できる。 ②修学旅行プランに対しての他者からのアドバイスを参考に解決策を見付けることができる。 ③グループ発表、全体発表に対しての相互評価ができる。	①協調性をもち、他人を気遣いながらコミュニケーションをとることができる。 ②指示に対して自発的に取り組むことができる。

(6)　単元（題材）の指導と評価の計画（７時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点			評価規準 （評価方法など）
		ア	イ	ウ	
第1・2時	各グループ内で発表準備	●	●		ワークシート アー① イー①
第3・4時（本時）	クラス発表（２回目） ①　２班、５班、４班（本時） ②　１班、３班 評価・改善		●	●	発表 イー①③ ウー①②
第5・6時	グループ内改善・最終発表準備	●	●	●	ワークシート アー① イー② ウー①②
第7時	最終発表・クラス代表決定		●	●	発表・ワークシート（振り返り） イー① ウー①②

(7)　本時（全７時間中の３時間目）

ア　本時の目標

(ｱ) 発表グループは、相手に伝わりやすい発表や姿勢を心掛ける。

(ｲ) １回目の発表でのアドバイスや指摘に対して工夫・改善ができている。

イ　仮説に基づく本時のねらい

(ｱ) 実際の旅行会社のプランを研究し、旅行プランを考案することで、企業活動を身近に感じさせ、学習に興味をもたせる。

(ｲ) 自己評価、他者評価をはじめ、評価規準を毎時間設定することで生徒に学習の見通しをもたせるとともに、他者評価と自己評価を比較することで、学習意欲を高める。

ウ　本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
5分	身だしなみ確認 ・前回の続きであることを伝える。 ・本時は、３班～５班が発表することを伝える。	・本日の注意事項を含め、伝わりやすい発表方法や伝え方についての再確認をする。	
40分	２班発表準備・発表 ポイント 生徒同士で良い面も悪い面もしっかりと伝えることが重要 ・グループ内で良い点と改善点について意見を出す。 ポイント グループごとの協働的学習として、教員側からの助言、指導については最低限のものとする。 ・班ごとに気になったところについて代表者が発表、質問する。 ５班発表準備・発表 ・グループ内で良い点と改善点について意見を出す。 ・班ごとに気になったところについて代表者が発表、質問する。 ４班発表準備・発表 ・グループ内で良い点と改善点について意見を出す。 ・班ごとに気になったところについて代表者が発表、質問する。 ・担当者から全体への改善点及び各班のワークシート提出準備	・良い点ばかり出してしまいがちであるため、できる限り気になった部分を見付けるように伝える。 ・再度、しっかりとメモを取るように指示する。 ・特に、気になる部分について発表してほしいことを伝える。 ・考えさせるようなアドバイスを行う。 ・各班のワークシートをまとめる。	発表 ワークシート イー①③ ウー①②
5分	自己評価 次回からの授業の流れについて	・自己評価表に記入し、改善点をもとに最終発表への準備を行うことを伝える。	ワークシート

(8)　本時の振り返り

本校のビジネスアイデアの授業は、独自の教材を作成して２クラス３展開で実施している。

１学期の学習としては、主にアイデアを考えるためのフレームワーク、発表方法を学び、基礎的な知識・技術を習得させ、発展的な学習への準備を行った。

２学期の学習としては、１学期に学習してきた知識やフレームワークの手法を活用して修学旅行プランの提案である。実際に市場に出ている旅行プランを研究（図５）し、グループで修学旅行プランを考えた。

本時の学習に入る前に生徒たちは、グループ内発表、クラス発表を何度も重ね、選んだ思考ツールを活用して、課題の発見や新たな発案を行ってきた。今回、自分たちが考えたプランの商品化という目標とともに全体発表により、相手からの質問や厳しい指摘を受けることで実社会でのビジネスを経験できると考えた。新しいものを計画し、それを相手に伝えることはビジネス社会では不可欠である。

「ビジネスアイデア」課題

（図５）

君たちには、旅行会社の社員として、全国の営業社員へ企画提供をしてもらいます。
旅行会社は修学旅行を起源とする会社で、現在も修学旅行は主要な事業の１つです。
今回、与えられているテーマは、**「東京修学旅行の新しい訪問先の提案」**です。これまで、あまり注目されていなかった東京の新スポットを全国の近畿日本ツーリスト営業担当が地方の学校へ提案をします。
高校生であるという利点を大いに活かし、大人では考えられない価値の提供ができるよう取り組んでください。

課　題

タイトル　「自分たちなら修学旅行でこんなところを訪問したい」
内容　・訪問先や体験内容の説明をする。（２つ以上）
（訪問数は 40 名～300 名を想定する。）※クラス単位や学校単位でも可。
・自分が魅力を感じるポイントを文章にする。
・写真や絵でその場の様子を記録する。
その他　・課題に取り組むための参考資料として、旅行用のパンフレットを、３部入手すること。（国内・海外問わず）
・提出は、２学期の最初の授業とする。

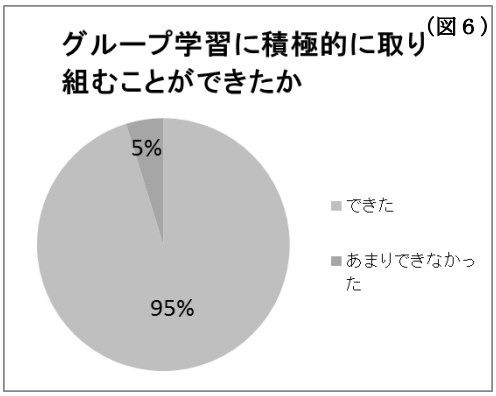
夏休みの課題：「自分なら修学旅行でこんなところを訪問したい」

年　　組　　番 氏 名

訪問先・体験内容	
自分が魅力を感じるポイント	
説　明	イメージ図

ア　仮説１の検証

１学期のフレームワーク学習や自分の考えを相手に伝える方法などの学習を踏まえ、市場に出ている旅行プランを考察し、自分たちで修学旅行プランを考えた。学習への意欲や関心がどのように変わったのか授業実践後にアンケートを実施した。「ビジネスアイデアの授業をとおしてビジネスに興味をもつことにできた。」という問いに 21 人中 16 名が「取り組むことができた」と回答し、実際のビジネスと関連した学習を取り入れることで、生徒は学習に興味をもつことができた。



（図６）

「グループ学習に積極的に取り組むことができたか」（図６）という問いに 21 人中 20 人が「取り組むことができた」と回答した。「グループ学習をとおして相手に伝えることの苦手意識の克服ができたか」という問いに 21 人中 12 人が回答した。４月当初に行ったアンケートでは、自分自身の意見を相手に伝えることができる」という問いに「できる」と答えている割合が 30％しかいなかったが、プラン考察から発表する訓練や練習を積み重ねた結果、多くの生徒が苦手意識を克服できた。また、思考ツールの学習をとおして、アイデアを提案することができるようになった。

イ　仮説２の検証

ビジネスアイデア　ルーブリック表（表１）を基に本校の生徒に合わせ、生徒が学習の見通しを立てられるようにするため、評価基準（表２）を生徒へ提示した。変更点としては、レベルＡ～Ｅまでを５段階評価にした。具体的には、グループ学習、プレゼンテーションなどの取組に対して、生徒自身が何を目指せば良いか理解しきれてない場合がある。ルーブリック評価表で評価基準を前もって提示すれば生徒はその評価基準にそって課題に取り組むことができる。

「表２」　　自己評価（ビジネスアイデア　ルーブリック表④⑧）

項　目	評価基準
仲間とのコミュニケーションを図る力	他のグループ、自分自身グループの発表を真剣な態度や姿勢で聞くことができた。また、考えに共感することができた。
あらゆる知識と技術をつかい、課題発見に取り組み力	１学期の知識と技術を活用し、改善点を見付ける。また、他者のグループからのアドバイスを基に改善点を見付けることができた。

ルーブリック表を基に作成した評価表で自己評価を行った際、当初は自分の取組に対しての評価が甘く、ほとんどの生徒が５または４の評価をしていた。途中から他者評価を実施したことにより、生徒は他者から評価されたものを見たときに自分の評価の甘さや適当でない評価をしていたことを知った。その結果、自己評価への意識が少しずつ変化することで、学習する態度等が大きく変化し、検証授業後に実施したアンケートには「自分の思ったことをグループで言えるようになり、楽しい。」「自分の意見を相手に伝え、それが採用されたとき、うれしい」「ビジネスを考えるのは大変だけど、たくさんの内容が参考になった」「新しいことは新鮮だった、楽しい」「アイデアは自分の知識と相手の知識を合わせることでどんどん出てくる」との意見が挙がり、生徒は意欲的に授業に取り組むことができた。

ウ　課題

課題は大きく三つ明らかになった。一つ目は、検証授業を実施したが、このビジネスアイデアの授業は通年で検証する必要がある。それは、フレームワークを活用した授業だけで本当に

生徒が主体的・意欲的に授業に取り組んでいるとは判断できないからである。大切になってくるのは、今まで学習してきた知識や技術をどこで使うことができるのかを生徒自身が判断し、活用することである。二つ目は、今回、企業連携という形の授業ができなかったことである。実地で学ぶことでビジネスを肌で感じ、興味・関心をもってほしいと思っていたが、企業とは年度途中から交渉となり、企業連携を実施することができなかった。企業連携授業をするために来年度に向けて早い段階で動く必要がある。三つ目は、評価についてである。ビジネスアイデアの評価は非常に難しく時間がかかる。私は、研究員で作成したルーブリック表を拡大解釈して少し形を変えて授業を実施してきたが、実際に生徒の主体性が向上したのかについては課題があった。そのため、ルーブリック表の改善を行い、生徒の主体性の向上につながる評価基準の完成を目指す必要がある。また、ルーブリック表は、商業科教員全員が簡単かつ的確な評価ができるものを作成していく。

検証授業　Ⅲ

教科名	商業	科目名	ビジネスアイデア	学年	第２学年

(1)　学校の目標

ア　基礎学力の向上　学力向上研究校事業と連携して、各教科において教科指導の工夫・改善を図り、全ての生徒の基礎学力の定着を図る。

イ　「何を」「どのように学び」「何ができるように」なるのかを重視したアクティブラーニングの視点に立った授業を実践する。

ウ　観点別評価への対応とシラバスの作成を推進する。

(2)　教科・科目の目標

検証授業Ⅰと同じ

(3)　単元の目標

ア　アイデアを評価・選択する力を身に付ける。

イ　課題解決のためのアイデアを、実践可能な状態へと具現化する方法を身に付ける。

(4)　単元名、使用教材（教科書、副教材）

ア　単元名　ビジネスプランの立案

イ　使用教材　　自校作成ワークシート

(5)　単元の評価規準

ア　知識・技術	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①目的に応じてフレームワークを活用することができる。	①ビジネスプランを様々な視点で評価し、その理由をまとめることができる。 ②ビジネスプランを簡潔にまとめ、伝えることができる。 ③ビジネスプランの改善点を見いだすことができる。	①グループで協働し、自ら進んで演習に取り組んでいる。

(6)　単元の指導と評価の計画（４時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点			評価規準 （評価方法など）
		ア	イ	ウ	
第1時	・ペイオフマトリクスを活用して、ビジネスプランシート（夏季休業時の課題）をグループで話し合い、アイデアを一つに絞り込む。	●	●		・ペイオフマトリクスを活用してビジネスプランを評価・選択できる。(ア―①　ワークシート 以下 WS) ・ビジネスプランを評価・選択し、理由をまとめている。(イ―①　演習への取組、WS)
第2時	・ストーリーボードを活用して、ビジネスプランを具体化する。		●	●	・顧客と時間軸の視点で、ビジネスプランの概要をまとめることができる。(イ―②　演習への取組、WS) ・他者と協働して、ビジネスプランをストー化しようとしている。(ウ―①　WS)
第3時（本時）	・SUCCESs を活用して、ビジネスプランの改善点を見いだす。 ・他者の考えた改善点に関心をもち、協働的に取り組むことができる。		●	●	・ビジネスプランを評価し、改善点を見いだすことができる。(イ―③　演習への取組、WS) ・演習において、他者の考えた改善点に関心をもち、協働的に取り組むことができる。(ウ―①　WS)
第4時	・ビジネスプランシートをブラッシュアップする。		●	●	・他者と協働して、ビジネスプランをよりよいものにしようとしている。(ウ―①　演習への取り組み、WS) ・ビジネスプランシートを仕上げることができる。(イ―②　WS)

(7)　本時（全４時間中の３時間目）

ア　本時の目標

(ｱ) SUCCESs を活用したビジネスプランの評価を協働して行う。

(ｲ) ビジネスプランの改善点を見いだす。

イ　仮説に基づく本時のねらい

(ｱ) 地域等と連携した対話重視の課題解決学習を行うことで、生徒は実際のビジネスを実感し、学習に興味をもてる。

(ｲ) 実際のビジネス現場で活躍するための資質・能力等を評価するルーブリック表を作成することで学習に見通しをもたせ、ビジネスを意欲的に学習する態度を育成することができる。

ウ　本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
3分	・本時の目標を確認する。(SUCCESs を活用してビジネスプランを評価し、改善点を見いだす。)	・フレームワークを学ぶことが目的ではないことを前提として、ビジネスプランをよりよくするために、SUCCESs(フレームワーク)を学び、活用することを伝える。	
42分	・SUCCESs を理解する。(ワークシート) 六つの項目(切り口)でアイデアを磨く。 「単純　Simple」　「意外性　Unexpected」 「具体的　Concrete」　「信頼性　Credible」 「感情　Emotional」　「物語　Story」	・良いアイデアには共通点がある。現状のビジネスプランの欠点を考えながら、六つの項目でアイデアを評価し、改善点を出すことを伝える。	

	①ビジネスプランの概要を確認し、WS に記入する。 ②SUCCESs の各項目に沿ってアイデアを評価する。 (◎、○、△、×) １各項目の担当者を決める。 ２個人で評価・理由・改善点を書き出す。 ３グループで共有し他人の考えをメモする。 ③改善すべきポイントを整理する。 (考えるべきこと、やるべきこと、調査すべきことなど。) ④グループ同士で発表する。(ビジネスプランの概要・改善点について発表と聞き手の立場を１回ずつ行う。)	・評価・改善の方向性を具体的に行えるよう、ビジネスプラン(前時で作成したストーリーボード)の概要を確認し、WS に記入させる。 ・評価項目を役割分担させることで全員参加を促す。 ・必要に応じて適宜、問いかけを行う。 「現状のアイデアに対する自分の満足度はどのくらい？」 「根拠はあるだろうか？」 「共感は得られるだろうか？」など ・アイデアをさらに良くするために、改善点を整理することを強調して指示する。 ・改善点が出ないグループには個別対応する。 「このプランに身銭を切るだろうか？」など	・イ―③　ビジネスプランの改善点を見いだすことができた。(WS) ・ウ―①　ビジネスプランをより良くするため、他者の考えた改善点に関心をもち、協働的に取り組むことができた。(演習への取組、WS)
５分	・本時の振り返りをする。見いだした改善点をまとめる。(WS の振り返り欄)	・次時では改善点を基にして、ビジネスプランシートを仕上げることを伝える。	

(8)　本時の振り返り

本単元は夏季休業中に考えたビジネスプランをブラッシュアップするというものである。本時は SUCCESs(単純・意外性・具体的・信頼性・感情・物語)の視点でビジネスプランを評価し、その改善点を見いだすことを目標とした。

１グループ５人で６グループを作り、活動を行った。本時の目標である「プランの改善点を見いだす」を達成するためには、グループ間での協議に時間を割く必要がある。そのため、SUCCESs の紹介は簡潔に行い、グループ活動の時間を確保するように努めた。グループ協議は単なる雑談になりがちであるが、「プランをより良くする」という目標のもと真剣に取り組むことができていた。

ア　仮説１の検証

本科目では様々な機関と連携し、地域企業を社会人講師として招き、ビジネスモデルや収支などについてグループワークや質疑応答を通してビジネスの実態を学んでいる。学んだ内容は企業分析シート(本校作成 WS)にまとめ、自らのビジネスプランに活用している。授業後に実施したアンケートには、「授業に地域企業や社会人にサポートしてもらうことで、より学びに興味をもつことができる」には 88.5%が肯定的であった。自由記述欄には、「○○会社の○○さんがアドバイスしてくれる」「講師の方のビジネスに対する熱い思いにグッときた」「発言を否定されない」などのコメントが残されており、生徒はビジネスアイデアにおいて様々な機関と連携した授業を受けることで、実際のビジネスを実感し、学習に興味をもつことができた。また、「従来の授業と比較して考える時間が増えた。」という問いに対して 92.3%の生徒が肯定的であり、「プランを考える際、様々な問題が出てくるが、それをどう解決するかを考えるのが面白い」「時間があっという間に過ぎてしまう」などのコメントを残しており、ビジネスアイデアの授業が、生徒の様々な資質・能力を高めているといえる。一方で、自由記述欄には「考える授業は難しい」と記述した生徒が３名いた。うち２名は「難しいけど頑張っているからやりがいがある」「グループワークが主体の授業なので意欲的に取り組める」とも回答しており、苦手な学びでも地域企業等との連携や、生徒間で進める学びによって取り組むことができるようになった。

イ　仮説２の検証

本時のルーブリック表は、ビジネスアイデア　ルーブリック表（表１、④、⑧）を基に作成した。（表３）

「表３」本時に応用したルーブリック表

身に付けさせたい力 ＼ 達成度		レベルＡ	レベルＢ【履修目標】	レベルＣ	レベルＤ【到達目標】	レベルＥ
思考判断表現	ビジネスプランの改善点を見いだす力	担当した項目について、具体的な改善方法を見いだすことができた	担当した項目について、改善の方向性を見いだすことができた	担当した項目について評価し、その理由を記述することができた	担当した項目について評価できた	担当した項目について評価できなかった
学びに向かう力・人間性等	他者の考えに関心をもち、協働的に取り組む力	他者の考えた改善点に三つ以上関心をもち、ビジネスプランをよりよくするために話し合うことができた	他者の考えた改善点に二つ関心をもち、ビジネスプランをよりよくするために話し合うことができた	他者の考えた改善点に関心をもち、ビジネスプランをよりよくするために話し合うことができた	他者の考えた改善点に関心をもつことができた	他者の考えた改善点に関心をもつことができなかった

授業で使用するワークシート　（図７）には一時間ごとの学ぶ内容(目標)が示されており、その記入状況と振り返り欄で学習状況の把握と生徒自身による自己評価ができる構成となっている。

（図７）

ビジネスアイデア　アイデアを評価・改善する　SUCCESs（　サクセス　）

1. SUCCESs…６つの切り口でアイデアを磨き上げるために活用する。アイデアについて(　　)・(　　)ができる。自己評価だけでなく他者からの視点を取り入れ、(　　)に評価することが大切。アイデア発想の段階や、プレゼンテーションでも活用できる。

［６つの切り口］…良いアイデアには共通点がある。
「Simple」「Unexpected」「Concrete」
「Credible」「Emotional」「Story」

2. 演習
①準備：アイデアの概要を確認する。
ビジネスプラン「　　」
②評価する：SUCCESsの各項目に沿って、アイデアを評価する。◎、○、△、×などを用いて可視化する。
☆評価のポイント

単純(S)	アイデアはシンプルで、第三者にも**理解できるか？**　キーワードは明確か？
意外性(U)	一般的な考え方からすると**意外性があるか？**　新たな切り口があるか？
具体的(C)	**細部まで考えられているか？**　定量的・定性的に説明することができるか？
信頼性(C)	**信頼性はあるか？**　事例、データ、根拠などはあるか？
感情(E)	**顧客の潜在欲求をつかんでいるか？**　感情に訴えかける要素はあるか？
物語(S)	**心をつかむストーリーはあるか？**　時系列やプロセスなどに流れに関する情報あるか？

③改善点を整理する：評価の内容を見て、アイデアをさらに良くするために考えるべきこと、やるべきこと、調査すべきことを整理していく。△や×がついた要素について重点的に対話を行い、今後やるべきことを書きだしていく。
④グループ同士で発表：アイデアの概要(小学生でもわかるよう簡潔に)と、改善点を発表。(各発表は１分以内)

【振り返り】
・ビジネスプランをより良くするためにグループで話し合い、取り組めた。【学び】(　A　・　B　・　C　・　D　)
・グループで整理した改善点をすべて記述しなさい。【思考】

自由記述欄

２年　　組　　番氏名　　出典：ビジネスフレームワーク図鑑　著）株式会社アンド　　検

授業で使用するワークシート　（図７）には一時間ごとの学ぶ内容(目標)が示されており、その記入状況と振り返り欄で学習状況の把握と生徒自身による自己評価ができる構成となっている。

「ビジネスアイデアの評価に納得しているか」という問いに対して100％の生徒が肯定的であった。その理由としては「毎回の授業でその日の評価の基準を明確にしていると思うから」「テストやグループでの活動をしっかり見てくれているから」などと回答している。これらの回答から、生徒は、ルーブリック表を基に何を学び、何を身に付けたのかを一時間単位で見通しをもち、振り返る活動を行うことができた。

ウ　課題

「ビジネスアイデアの評価に納得しているか」という問いに対して、以下のような自由記述があった。「この教科に正解はないから評価すること自体間違っていると思う。評価をするとなると数字を気にしてしまい、アイデアをムダにしている人も多いと思う。」このような回答は、これまでの評価が定期考査や発表活動などの結果によるものが大きいと生徒が感じているためである。そして、現状では、結果に至るまでのプロセスを教員が評価し切れていないといえる。本時においては、思考を可視化するためにワークシート（図８）に２点の工夫を行った。それは、ビジネスプランをただ単に評価するだけでなく、その理由を記述する欄を設けたことや、他者の意見や発言を赤で記入させることで、改善点を見いだすまでの思考プロセスを可視化したが、ビジネスアイデアの目標を達成するためには、生徒のクリエイティビティが発揮できる評価方法について検討することが必要である。生徒の中には「ルーブリック表を意識し過ぎて考えが出てこない」という意見があった。ルーブリック表の適用は、学習の見通しをもたせることが可能であるが、それはあくまでも学習到達度の目安である。評価表ありきではなく、生徒自らが到達度を把握しそれを学習に役立てるという目的を、伝えた上で評価表を活用する必要である。

（図８）

SUCCESs

	評価	評価した理由	改善の方向性（考えるべきこと、やるべきこと、調査するべきこと）
単純 Simple			
意外性 Unexpected			
具体的 Concrete			
信頼性 Credible			
感情 Emotional			
物語 Story			

Ⅵ　研究の成果

仮説１の検証授業では、協力企業の方に参加していただくことにより、実際のビジネスに近い環境で発表する機会を設けた。検証授業前の生徒アンケートでは、「学びに興味がありますか」との問いに対して 41%が「はい」と答えたが、検証授業後のアンケートでは、「授業に地域企業や社会人にサポートしてもらうことで、より学びに興味をもつことができたか」の問いに対して 89%の生徒が肯定的な回答をした。自由記述欄には「いろいろな意見を聞けて参考になった」との記載があり、普段とは違う方に発表を見てもらったことによって、緊張の中で発表するといった、より実践に近い状況で授業を行うことができたことも学習意欲につながった。協力企業の方からは、「企業と同じ手法で市場を分析している」、「次回は、高校生に新入社員と自社の商品についてディスカッションしてもらいたい」等の感想をいただき、商業高校の生徒と関わることに前向きな企業があることの確認ができた。

仮説２の検証授業では、「ビジネスアイデア　ルーブリック表」を基に、それぞれの授業に合った形に変えて生徒に提示した。検定試験の取得に比重を置いてきた商業科の授業においても、一人一人の学習に対する取組を他者評価等で可視化することにより、生徒の「思考力、判断力、表現力等」や「学びに向かう力、人間性等」に関する評価を生徒と共有することが可能になるとともに、生徒の学習意欲を引き出し、主体的な学習につなげることができた。

Ⅶ　今後の課題

１　企業連携の難しさ

本年度実施した協力企業、商店街、大学等と各商業高校の連携が、各学校の特色に沿った状態で継続することが望まれる。その際、協力企業と連携するには窓口となる教員が必要であるが、業務が偏重してしまう問題がある。今年度、検証授業において企業との連携を計画していたが途中で頓挫してしまった学校もあった。連携先とは、余裕をもち半年以上前から、打ち合わせをしていく必要がある。

２　プレゼンテーション資料の作成に集中してしまう

ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題解決する力を身に付けさせたい。しかし、発表の際に用いるプレゼンテーションソフトの資料の完成度を重視してしまい、科学的な根拠が乏しいアイデアになってしまう様子が見られた。成果を分かりやすく伝えるプレゼンテーションの資料作成能力等を向上させることも必要であるが、ルーブリック等で生徒と教員が教科や単元の目的及び観点等を共有する必要がある。

３　ルーブリック評価の難しさ

ルーブリック表を用いた評価を行ったが、担当教員によって評価にバラつきが出てしまう可能性を感じた。また、ルーブリック表作成の難しさを感じた。そのため、各時間単位で示すところまで実現できなかった。生徒からはルーブリック表を意識し過ぎて考えが出てこないという意見があった。そのため、生徒に、ビジネスアイデアの評価は、結果に至るまでの思考プロセスを可視化し、評価の妥当性・正当性が確保されていること伝える必要がある。さらに、絶えず変化する実際のビジネスで活躍できる資質・能力や生徒の意見等を取り入れ、見直しをしていくことで、生徒自らが到達度を把握し、それを学習に役立てるという目的を伝えた上で評価表を活用する必要がある。

平成 31 年度(2019 年度)　教育研究員名簿

高等学校・商業

学　校　名	職　名	氏　名
東京都立葛飾商業高等学校	教　諭	山田康平
東京都立芝商業高等学校	教　諭	◎丸山　祐
東京都立江東商業高等学校	教　諭	木口幹康
東京都立第三商業高等学校	教　諭	幕田一也
東京都立第一商業高等学校	教　諭	重松友弥
東京都立第四商業高等学校	教　諭	宮田智文
東京都立第五商業高等学校	教　諭	武田英大

◎　世話人

〔担当〕東京都教育庁指導部高等学校教育指導課
指導主事　　佐竹　晶博

平成 31 年度(2019 年度)

教育研究員研究報告書
高等学校・商業

令和２年３月

編　　集　東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　　（０３）５３２０―６８４９